

されてきて、漸く一部の人が気がづき出した。特に若い三代の女性が多いです。本当に意識が高い。

—— 若い女性の問い合わせが多いと。

**岡本** 多いですね。私どものセミナーに来られる方は三十代の女性が多いです。非常に真剣に考えています。

将来の自分を支えるのは今の自分しかないんだと、そういう意識を持っていますよ。

割と最近では、五十五歳以上の本当に定年を目前にして、さて現状を少し考えてみると、このままでいいのかなと。退職金もらって世界旅行に行つて使つていいものなのかと。そういう漠たる疑問がみんな心の中に出てきて、もう少しちゃんと勉強しなくてはいけないという意識がすごく高まってきていると思います。

## 自分たちが豊かになったら どう社会に分配するか

—— 二人はともに海外経験



さわかみ・あつと

1947年生まれ。73年ジュネーブ大学付属国際問題研究所国際経済学修士課程修了。70～74年スイス・キャピタル・インターナショナル社アナリスト兼ファンドアドバイザー。75年山一証券国際部嘱託でファンドアドバイザー及びアナリスト養成。80年ピクテ銀行(スイス)日本代表。96年さわかみ投資顧問(現さわかみ投信)設立、社長に就任。

が豊富ですが、それは人生観、経済観に影響していますか。

**澤上** 全然違う世界で、こういう生き様とかあるんだなあ、それを若い頃によく見ましたね。どんどん頑張つて自分が上がれば上がるほど、もっとすごい人たちに出会えるわけです。それをたっぷり見てきました。

それで、日本にそれを投影させると、これは何だと、大分ズレがある。いろいろ考えているうちに、段階的に動くのかなと。

だから、いずれ日本も出てくる。だったら、こちらでどんなモデルを提案しようと。世の中にどんどん提案していこうという気持ちで来ました。

—— その外国の良さというのは？

**澤上** よく言われるように、日本は民主主義でも輸入した民主主義です。だから「権利と義務」ばかり言われている。民主主義は戦い獲ってきたものです。それは犠牲を払っているわ

けですよ。

何かを欲すれば何かを払わなければいけない、当たり前の世界です。勝ち得て、自分たちで築き上げてきているから、自己犠牲、自己責任、義務感も含めて、その上に権利、それも非常に理知的な権利、あるいは人間としての思い、何のために生きるのか、哲学をすごく意識しているんです。

だから我々がやっているのは、第一は個の確立です。それで生きていく。運用、運用と言うけれど、そもそも食えなければいだろうと。儲けるための運用ではないんです。これは我々が共有していることです。

だから我々自身は楽しんでい

るんですよ。自分たちがやることをやって、ある程度豊かになったら、いかに社会に分配するか、こう考えるわけです。

西洋でノーブレス・オブリージュとよく言うのは、本当は、人間が不平等であることが前提なんです。不平等だから神様、